

信州大学医学部附属病院 循環器内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

「日本における成人先天性心疾患患者の通院状況に関する調査(多施設共同後ろ向き観察研究)」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	日本における成人先天性心疾患患者の通院状況に関する調査(多施設共同後ろ向き観察研究)
所属(診療科等)	循環器内科
研究責任者(職名)	桑原 宏一郎(教授)
研究実施期間	医学部長による許可日～2030年5月7日
研究の意義、目的	国内の成人先天性心疾患患者がおかれている医療状況を把握することで、今後の医療支援の改善の礎となることが期待される。
対象となる方	2012年1月1日から2030年3月31日の期間に当院で成人先天性心疾患センターについて医療を受けられた方
利用する診療記録／検体	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果など
他機関への試料・情報の提供方法	電子的配信により提供します
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、現状把握を行います。
共同研究機関名	北海道大学病院(安齊 俊久)、東北大学病院(安田 聡)、東京女子医科大学病院(庄田 守男)、大阪大学医学部附属病院(坂田 泰史)、岡山大学医学部附属病院(伊藤 浩)、九州大学病院(筒井 裕之)、国立循環器病研究センター(大郷 剛)、秋田大学医学部附属病院(渡邊 博之)、岩手医科大学附属病院(森野 禎浩)、富山大学附属病院(絹川 弘一郎)、自治医科大学附属病院(今井 靖)、千葉県循環器病センター(川副 泰隆)、聖路加国際病院(丹羽 公一郎)、慶応義塾大学病院(福田 恵一)、聖隷浜松病院(岡 俊明)、名古屋大学医学部附属病院(室原 豊明)、京都大学医学部附属病院(加藤 貴雄)、京都府立医科大学附属病院(的場 聖明)、愛媛大学医学部附属病院(山口 修)、鹿児島大学病院(大石 充)、公益財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院(磯部 光章)、神戸大学医学部附属病院(平田 健一)、久留米大学病院 循環器病センター(福本 義弘)、三重大学病院(土肥 薫)、筑波大学附属病院(家田

	真樹)、天理よろづ相談所病院(田村 俊寛)、和歌山県立医科大学(赤阪隆史)、大阪医科薬科大学(星賀 正明)、岐阜県総合医療センター(野田俊之)、札幌医科大学(三浦 哲嗣)、群馬大学医学部附属病院(倉林 正彦)、横浜市立大学附属病院(石川 利之)、北里大学病院(阿古 潤哉)、新潟大学医歯学総合病院(猪又 孝元)、埼玉医科大学国際医療センター(岩永 史郎)、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(中矢代真美)、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院(加田 賢治)、兵庫県立尼崎総合医療センター(佐藤 幸人)、名古屋第二赤十字病院(七里 守)、独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院(宮田 健二)、静岡県立病院機構静岡県立総合病院(坂本 裕樹)、昭和大学病院(新家俊郎)、大阪市立総合医療センター(成子 隆彦)、東京慈恵会医科大学(吉村 道博)、順天堂大学医学部附属順天堂医院(南野 徹)、徳島大学病院(佐田 政隆)、金沢大学附属病院(高村雅之)、独立行政法人 広島市立 広島市民病院(西岡 健司)、千葉市立海浜病院(立野 滋)、東邦大学医療センター 大森病院(池田隆徳)、金沢医科大学(安藤 誠)、長崎大学(前村 浩二)、群馬県立心臓血管センター(山下 英治)、水戸済生会総合病院(村田 実)、横浜労災病院(柚本和彦)、加古川中央市民病院(圓尾文子)、宮崎県立宮崎病院(井福 俊允)、さいたま赤十字病院(狩野実希)、横須賀市立うわまち病院(宮本 朋幸)
研究代表者	主任施設の名称: 東京大学医学部附属病院 研究責任者: 犬塚 亮
問い合わせ先	氏名(所属・職名): 原田 美貴子(診療助教) 電話: 0263-37-3486

既存の診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

利用する情報からは、患者様を直接特定できる個人情報削除し、主任施設である東京大学医学部附属病院に提供します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、参加取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。